



意見書

平成20年6月5日

薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための
医薬品行政のあり方検討委員会
座長 寺野 彰 様

委員 大平勝美

7月を目途に検討会中間報告をまとめるにあたり、急いでいるのは理解できる。しかし、2回目検討会事前資料とされる「早期実施が必要な対策のための論点(案)」を見るに、1回目で出されている意見を組み入れた整理とされたい。また、早期実施の必要な対策のための理念も組み入れられたい。

1. これまで薬害を焦点にしたとき、医薬品という薬剤を中心に更なる安全性とその副作用等の情報管理に議論を進められてきた。この視点から薬害を検討していても、新たな悲劇を本当に防げるのか。

サリドマイド、スモン、HIV、肝炎と薬害再発はとめることができず、多大な犠牲を強いてきた。当然、薬剤そのものに害毒性、ウイルス等の混入などがその製造にかかわる過程で問題があるが、この副作用や薬害再発防止には既存の組織や制度にとらわれずに、新たな観点を導入した理念をもとに早期実施の一步を踏み出すべきと考える。

2. 医薬品による健康被害。薬発信でなく、人発信の情報重視に

薬という無機物を媒介して薬害が生じているが、この無機物に血を通わせ、活かして人の命と健康に寄与させるのは、人である。薬から人を見るのではなく、人を通して薬を見ることに転換してほしい。患者、研究者、製薬会社、医療者、行政等々から薬を見る構図が大切である。

3. 薬事の所掌からでなく、厚生全体の所掌で「人」と「命」に密着した安全管理を考える

人を通してみると、第1回目で考慮するとした、医療に密着した「医政局」「健康局」等々も当然入り、医薬食品局所掌をこえたところで検討し、具体化を目指すべき。

以上の方向性を持って、論点(案)には書かれていない「薬害」の記述も入り、「人」重視の、視野の大きな枠組みで人の命を守る厚生行政につながると信じる。